CREATE A HAPPY AND SMILE BY RENOVATION

FREE!

UNIQUES

NU BY RENOVATION LIFE STYLE FREE PAPER

new-used

issue
07
SEPTEMBER
2016

head line

東京「モノ」そのつくり手。

「東京」で暮らす。*made in Tokyo*

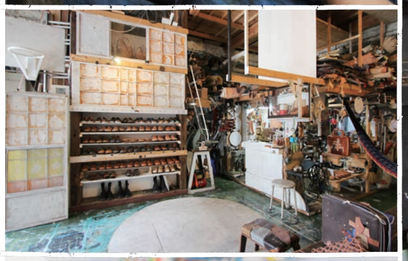
nu by renovation®

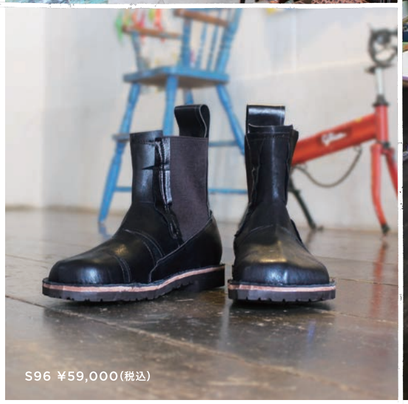
New things are eventually getting old...
Renovation can give used things new value.

東京「モノ」そのつくり手。

東京では、毎日数え切れないほどのモノが作られる。
その中で、真意を追求するつくり手はどのくらいいるのだろう。
どんな人が作っているのか、どんな想いで作っているのか…
つくり手の顔が見えると、モノはより魅力的になる。
自然な美しさ、使うほどに風格を増す質感、
独創性に妥協しないで作られたモノ…
その全てが私たちの五感に心地よさを与え、
使うたびにこれに代わるモノはないと実感させてくれる。
今回は、そんな東京というエリアにこだわり作られたモノ、
そしてそのつくり手の想いとは何かを探ってみた。

オーダー靴や、その時期に手に入った革で作られるSシリーズは1足1足異なる表情を楽しめる。オールブラックのS96はさりげなくいれたステッチやサイドゴアにダークブラウンを使っているのもミソ。





S96 ¥59,000(税込)

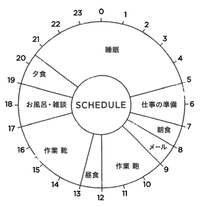
自分が欲しいモノを自分が作れる範囲で。

欲しくて欲しくてたまらない靴がある。その靴は浅草にある〈SODA STUDIO〉で作られる。SODAという名前はつくり手である、曽田さんから取ったもの。その曽田さんに靴作りを始めたきっかけを尋ねてみると、答えは意外にもシンプルなものだった。それは、自分が欲しかったから。学生の頃からモノ作りが大好きだった曽田さんは、高校卒業と共にあらゆるモノを作り始めた。自分で作った茶碗でご飯を食べ、急須でお茶を入れる。食器だけでなく服や机、椅子も作れるんじゃないかと試しに制作してみるとなかなかの仕上がりだったという。「自分の作ったモノに囲まれながら過ごしていたら、ある日気付いたんです。あれ、靴だけがないなって。」さっそく見よう見まねで靴を作ってみた曽田さん。しかし靴は何度作っても上手くいかなかった。やり方を聞きに靴屋さんへ足を運んだこともあったが教えてもらえず、やっとの思いで見つけ出したのが靴の職業訓練所、台東分校。たった1年間という短い期間だったが靴作りにどっぷりとはまってしまったという曽田さん。それからは靴を路上で売る事から始め、全国を回る展示会『100shoes』などを経て、最終的にこの浅草という地に工房を構えたのだそう。しかしこの〈SODA STUDIO〉はただの工房ではない。元工場を自分で工房兼住まいとして改装した空間は、今にも動き出しそうな生き物のようだ。その中央にある小さな作業場で見せてくれた靴作りは圧巻だった。話をしながら口に釘を含み、1本1本型に打ち付けていく。「話ながらの方がいいんですよ。」と言い、手を動かし続ける曽田さんに「どんな人に履いてもらいたいですか?」と聞いてみた。「どんな人というか、狙いはないんですよね。自分が履きたいモノを作るだけです。それが始まりだし、これからも変わらないと思います。」ときっぱり答える曽田さんはとてもかっこよかった。

飾らないシンプルなスタイルで暮らしていくこと。

「既製品の見た目があんまり気に入らないんですよね。型にはまっているというか、この工房には似合わないと思います。」と曽田さん。そう言われてみれば、この工房内には普段の生活でよく見るようなパソコンや電子時計さえ置かれていない。同じ時代の日本に暮らしているはずなのに、なんだかここにいると、異世界に迷いこんでしまった気分になる。冬は自分で割った薪を暖炉で燃やし暖をとり、子供の使うランドセルだって一緒に作ってしまう。曽田さんの靴作りはこういう日々の生活からすでに始まっているのかもしれない。

大先輩が作ってくれた焼印。あえて楕円系になっていたり、英字のOの部分に印がつけてあったり、考えれば考える程、もっとその訳を知りたくなる。



スケジュールはきっちり決めるのが曽田さん流。休憩時間は子供と一緒におかしを食べるのも楽しみの1つ。

File.1
Shoes/Bag
KOU SODA

曽田 耕

靴作りを初めて25年目。お手製のズボンは30年前からずっと作り続けている。

作為的ではないからこそ、美しいモノ『S96』。

工房に入った時から気になっていたことがある。カラフルな色使いが多い曽田さんの作品の中に1つだけ黒い靴があったからだ。黒い靴なんてどこの店にも溢れているのかもしれないが、この工房では一際存在感が強い。聞くと名前は『S96』と言うらしい。しかもすべて廃棄された革で作られているというから驚きだ。黒は好きではなかったそうだが、生の皮がレザーになるまでの時間や人が掛けた手間を考えると、もったいなく感じたという曽田さん。どうにか上手く使えないかと考えた結果がこの『S96』だった。廃棄された革を贅沢に、でも余すことなく使いたいという想いから一番面積の多いブーツを選択。試作段階の時に曽田さん自身が履いていると周りから「それいつできるの?」と何度も聞かれるほど人気だったんだとか。よく見るとこのブーツ、ただものではない。ミシン目はガタガタだし、切り口もざっくりとしている。ただ一目見ただけで愛おしく感じてしまうのはどうしてだろう。この『S96』は同じ作品でも1つ1つ違う表情を持つ。「この前靴を作っている時に、子供同士が面白い事をしているのに見とれてミシン目がずれちゃったんですよ。でも僕はそれをお客さんに言っちゃいます。ここの縫い目はね〜って感じで。それだけで、ストーリーが生まれて特別な靴になるんです。」そんな曽田さんの靴作りのモットーは、使えること・丈夫だということの2つ。この『S96』のデザインもこの2つを追求した末に出来上がったもの。意匠をこらしてできたのではなく、使いやすさや丈夫さを追求したからこそできた意匠だ。それともう1つ気になるのはこの『S96』というネーミング。

「黒だから96。あとミシン糸の色番号も偶然96番だったから、これしかないと思ったんです。1人でやってるから、GOサインを出すのはいつもこんな感じで、何かの巡り合わせがきっかけですね。」意図的であるように見えて、実はいくつもの偶然が重なってできた『S96』。これからもそんな偶然との出会いを楽しみに、モノ作りを続けていきたいと言う。

「靴のつくり方。」

◀ ①製図
②製甲
・型入れ
・裁断
・ミシン
◀ ③底付け
・つりこみ
・底貼り／底縫い
・つみあげ／化粧
④仕上げ

通常数人の職人で①〜④を分業して行うものを曽田さんは1人でこなす。③の次に②を行うなど、1人であることの柔軟性を活かし効率的に作業をするのが曽田さん流。

SODA STUDIO

10年かけて作ったという工房兼住まい。アットホームな佇まいから近所の人がふらっと訪れるという理由もなんだか分かる。

東京都墨田区東駒形 2-3-11
http://www.sodako.com/

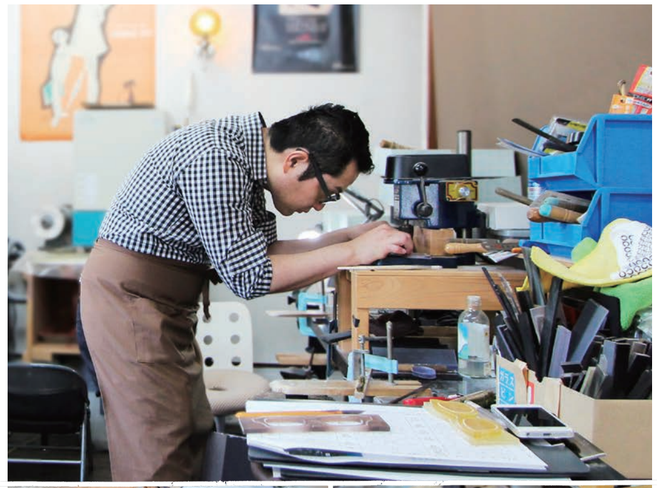
人生を共に歩んでいく眼鏡作り。

北は北海道から、南は石垣島まで、眼鏡好きが集まるという場所が東京の江戸川区にある。そこは1930年代から続く眼鏡の老店〈RUISM〈ルイズム〉〉。オールハンドメイドのセルロイド眼鏡を制作する〈RUISM〉は4代目になる奥山さんがデザインを手掛けている。金属工芸を学び、アクセサリー制作をしていた奥山さんが家業の眼鏡作りに加わったのは2007年頃。指輪なら0.1㎜程度のずれは手作りの味と捉えられる時もあるが、眼鏡はそうはいかない。0.1㎜ずれるとピントが合わず、時には頭痛を引き起こすなど、医療器具だけに寸分の狂いも許されない。「セルロイドは堅くて加工しにくいんですよ。それでもセルロイドを使うのは一度顔になじんだら、ずっと崩れないからなんです。一生モノって言うのかな。使う程に、その人の体の一部になっていくような感じです。」と奥山さん。〈RUISM〉に代々伝わるオーダーメイド眼鏡作りは、まずその人を知る事から始まる。顔のサイズを細かく測りながらも「目の幅がちょっと広くて…。」「鼻に眼鏡の跡がすごい残るんだよね。」など会話の中の何気ない一言を拾いながら、その人が本当に求めているサイズや形をじっくり探っていく。その工程を経て完成した〈RUISM〉の眼鏡を掛けた人はもう他の眼鏡には戻れないと言うほどだ。自分に合うサイズが見つからず、市販の眼鏡では満足できない人達が全国各地から集まる理由も分かる。そんな奥山さんに「一番好きな作業は？」と聞いてみた。「ヤスリがけかな。作業中はその人のことだけを考えてます。顔をイメージして、好きな色は何だろう？どんな時に眼鏡をかけるのかな？っていう感じで。大切に作られた眼鏡は使う人も幸せだし、つくり手も幸せだと思うんです。」と奥山さん。丁寧に作られた眼鏡はその人になじみ、時にはその人の人生を変え、一生の伴侶となるのだ。

RUISM

レトロな文字が歴史を感じさせるガラス張りの工房。友人に描いてもらったというキリンの絵は近所の人からも親しまれている。

03-6687-0379
http://www.ruism13.com/



File.2 Glasses

RUI OKUYAMA

奥山 留偉

2児のパパでもある奥山さんの眼鏡はもちろん自作。マットな質感が特徴的だ。

～1956年

当時 100 円玉に使用していたという白銅がアクセント。

2009年

マットな質感の眼鏡。アームの部分にはパワーストーンをプラス。

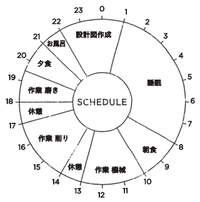
2016年

フロントとアームの部分で色を切り替えたデザイン。

時代を経るごとに、デザイン重視のモノから、その人のライフスタイルに合った機能的なモノへと変化している。

RD-002 ※価格については、WEBまたは電話にてお問合せください。

ヤスリは工程ごとに種類や目の細かさを変え使い分ける。中には高校時代から使っているという愛用品も。



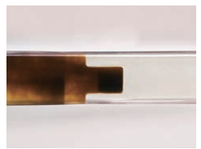
作業は工房で、眼鏡デザインは自宅兼事務所で行ってメリハリをつけることで、集中力も高まるそうだ。

眼鏡職人VS眼鏡マニア。

最近、眼鏡マニア"の方からの問い合わせが多くなったという奥山さん。設計図を持参して「こんな感じで作ってください！」と言う人や「左右違う形状の眼鏡って作れます？」などマニアならではの要望も多い。嬉しいことだが、その高い要求に答えるために日々の研究も欠かせない。構造研究のためにと中古・新品問わず眼鏡を集めていたら奥山さん自身も今では"眼鏡収集マニア"と呼ばれるようになったそうだ。

眼鏡でつなぐ日本の技と伝統。

MADE IN JAPAN。日本らしさって何だろう？奥山さんなりの答えを探した結果、"継手"という方法にたどり着いた。継手は古くから日本に伝わるネジ・クギを使用しない建築技法。建築と眼鏡、一見何の接点もないように思えるが、いくつものパーツを繋ぎ合わせ1つのモノを完成させるというところは、眼鏡作りにも通ずるものがある。熱を加えると膨張し、冷ますと収縮するセルロイドの性質を活かし2つのアームのパーツを継手で組み合わせる。冷ます過程で出てくる微妙な形のずれは再度熱を加え少しずつ整える。この熱しては冷ますという作業を何度も繰り返し4日ほどかけ、お客様が求めるデザインを追求していく。フロント部分はボストン型やウエリントン型など4種類。日本の伝統技術を取り入れた継手のアーム部分に自分の好みの色を組み合わせられるところも人気の理由だ。



東京生まれ、東京育ちの繊細さとデザイン

大切な人にプレゼントを贈るなら何がいいだろう。財布、時計、マフラー…。色々あるけど、もし次にそんなタイミングがあったら『江戸切子のグラス』はどうだろう。伝統的な細やかな模様が刻まれた江戸切子グラスはここ墨田区にある〈すみだ江戸切子館〉で作られる。〈すみだ江戸切子館〉は2004年に江戸切子の専門工房ショップとして、この地に店を構えた。ここで働く川井さんは、今年で硝子職人として25年目を迎る。叔父が硝子関係の仕事をしていたことがきっかけで、硝子の美しさに惹かれていったという川井さん。ある時叔父から東京で硝子職人の仕事があると聞いた事が始まりだった。〈すみだ江戸切子館〉のグラスはとにかくデザインが繊細だ。"蜘蛛の巣紋"や"市松紋"など30種類以上ある江戸切子の伝統的な模様を組み合わせて、1つのグラスを仕上げていく。どれを取っても、ごつごつとした男性の手から生み出される品とは思えないほど、とても繊細で美しい。もちろん江戸切子を扱う店は他にもあるが、一目で"〈すみだ江戸切子館〉のモノだ"と分かってもらえるよう、繊細なデザインや質を極めていきたいと言う。

この江戸切子グラスは熟練の職人でも1日5個程度しか作れないらしい。機械化はできないのか？と思うところだが、答えはNOだ。これまで江戸切子の美しさ故、国内外で機械化が図られた。しかし素材やサイズが1つ1つ微妙に異なる硝子だからこそ、機械はその変化に対応できなかった。現代の技術力を持ってでも人の手でしか生み出せない、それが江戸切子だ。「硝子って本当は無くても良いものなんですよ。水を飲むにしても紙コップや、なんなら手でも良い。価値が無いモノに僕が手を加えると、お金を出しても欲しいと思ってくれる人が居るってなんだか悪い気がしないよね。」と川井さん。そう言いながら工房の窓から入る光が、川井さんの持つグラスを照らしとても美しかった。

すみだ江戸切子館

1899 年の創業以来、代々硝子製品を制作してきた〈廣田硝子〉から江戸切子の専門工房ショップとして独立した〈すみだ江戸切子館〉。

03-3623-4148
www.edokiriko.net

約50年前に作られた灰皿。今ではあまり見かけないブルーの厚手硝子。

伝統切子"あられ紋"を施した『aya／綾』シリーズ。

50年代に人気だったデザインを復刻した『BRUNCH』。

File.3 Glass

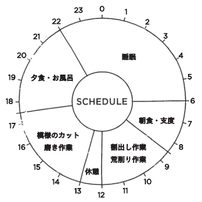
KOZO KAWAI

川井 更造

伝統を守りながら技術を次世代へ伝えるため『江戸切子マイスター』としても活躍。

BRUNCH 10Oz. ¥4,104(税込)

グラスに紋を入れたり、光沢を出す時に使うカット機は、毎日長い時間を共にする相棒。



多品種小ロットで生産しているため、スケジュールはその日によって様々。お昼は奥様の愛妻弁当で一休み。

伝統技術に触れる・感じる。

江戸切子と聞くと少し、堅いイメージがあるが、〈すみだ江戸切子館〉では誰でも気軽に参加できる江戸切子体験というものを開いている。伝統の品をもっと手軽に楽しんでほしいという想いから始まったものだ。講師は〈すみだ江戸切子館〉の職人達。「道具の使い方を教えたら、後は自由にカットを楽しんでもらってます！」普段直接お客様と関わる機会が無い職人達に「とって、楽しみの一つとなっている。」

モノと共に蘇るあの頃の思い出。

1950年代。きっと皆がまだ生まれていない頃に作られたグラスがある。それがこの『BRUNCH』だ。その頃に作られていたものとほぼ同じ素材とデザインで作られた、いわゆる復刻版。伝統的な切子の紋を、薄い硝子の上で丁寧に組み合わせていく。この薄い硝子というのがなんとも曲者で、高い技術を持った職人でなければ模様を入れることすら難しい。その技術は引き継がなければ、いつかそのモノ自体もなくなってしまう。だからこそ、昔のデザインを今売り出すことにした。この『BRUNCH』を見ると若い人は「美しい」「綺麗だな」と言い、一方昔このグラスを使っていた人が見れば「このグラス懐かしいね」と当時の事を思い出すきっかけにもなりうる。"両世代から愛されるモノになって欲しい"それが職人達の想いだ。

丁寧な土作りで育む江戸東京野菜。

江戸東京野菜というものを知っているだろうか。それは古くから江戸・東京で伝統的に作られる野菜のことだ。一時は栽培が絶えかけたという江戸東京野菜。そんな江戸東京野菜を代々続く実家の農場で栽培している人がいる。それが〈ファーム渡戸〉を経営する渡戸さんだ。以前は普通の会社員だったが、仕事で取り組んだ馬込半白きゅうりの普及活動をきっかけに脱サラ。実家を継ぐ事を決意した。江戸東京野菜作りのプロとして地域の人からの信頼も厚い渡戸さんが野菜作りを語るにあたってどうしても譲れなかったのが“土作り”だ。堆肥は近隣の馬術クラブから貰った馬糞におがくずを混ぜて発酵させ、しばらく寝かせると渡戸さんオリジナルの有機堆肥が完成する。その有機堆肥を丁寧に土に混ぜ込むことで旨味のあるおいしい野菜が出来上がるという。一般的な野菜に比べて、病気に弱い江戸東京野菜にとっては、この土作りの善し悪しで、仕上がりが大きく変わると言っても過言ではない。丁寧に作り込まれた土で育った江戸東京野菜はどれも艶があり、新鮮そのもの。その野菜を目当てに直売所には朝から沢山のお客さんが訪れる。昔からの常連や、近所に住む若いカップルなど客層は様々だが、皆口を揃えて「渡戸さんとこの野菜はうまい」と言う。近くにスーパーがあるにも関わらず、多くの人が買いに来るということが渡戸さんの作る野菜の味を証明している。

「病気に弱い江戸東京野菜を作るのは正直リスクが高いですよ。でも誰かが成功例を作らなきゃいけないんですよ。じゃなきゃ、誰も後に続かないでしょ？リスクを取ってでも、その誰かになってみようって思ったんだよね。」と笑顔でさらっと言いのける渡戸さんだが、その言葉1つ1つに江戸東京野菜にかける熱い想いが垣間見えた。

ファーム渡戸

家族で経営する〈ファーム渡戸〉の直売所は午前中には売り切れてしまう程超人気店。その日の朝に収穫した新鮮な野菜がずらりと並ぶ。

東京都練馬区平和台 3-27
03-3933-4078

File.4 Farmer

HIDEYUKI WATADO

渡戸 秀行

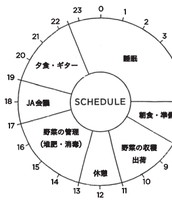
江戸東京野菜を作り始めて10年目。夏は作業服に麦わら帽がいつものお決まりスタイル。

馬込半白きゅうり
サイズ：約20cm
収　穫：6月〜7月
料　理：漬物・サラダ

練馬大根
サイズ：約80cm
収　穫：11月〜
料　理：煮物・大根おろし

馬込三寸人参
サイズ：約10cm
収　穫：11月〜
料　理：煮物

良い物を長く使いたいという想いから購入したオリジナルの南部鉄のハサミは、錆びにくく切れ味も抜群。



朝一で野菜を収穫し直売所に出すものと出荷用を分ける。夕食後のギター練習も楽しみの1つ。

だいこんRadish。

「空き時間は何してますか？」という質問に「ギターかな。でも趣味じゃないですよ、野菜のおいしさを広めるために本気でやってるんで！笑」と渡戸さん。ちなみにグループ名は『だいこんRadish』。ボーカル兼ギターの渡戸さんが作詞・作曲したという『ファーマーズマーケットに行こう』では、近所の方と一緒にPVを撮影するなど、かなり本格的。他にも動画サイトには『キャベツ、食べる。』などがアップされている。

手をかけて守る、東京伝統の味。

この時期一番おいしい野菜は『寺島なす』だと言い切る渡戸さん。昔、隅田川のそばにあった寺島村で栽培されていたことから『寺島なす』と名付けられたのだそう。ころん、となんとも愛らしい卵形で、ちょうど片手に収まる程のサイズ。普通のなすと比べると少し小ぶりだが、果肉が緻密で皮と身の間にうまみが凝縮されているのが特徴だという。また、この『寺島なす』を作るには丁寧な土作りはもちろん、できるだけ農薬は控えめにし、病気を防ぐためのこまめな手入れやチェックは欠かせない。毎年2月に種撒き、5月に苗植え、6月下旬から少しずつ収穫を始めるのがいつもの流れ。なすは油との相性が抜群なので、炒め物にするのも良いそうだが、渡戸さんのオススメはなすの煮物。「うまみが強い『寺島なす』をくたっとなるまで煮るとたまらなくおいしいです。」と渡戸さん。

理の上に作られるデザイン。

女性家具職人と聞いて皆さんは、どんな人をイメージするだろう。男性にも劣らない屈強な女性が現れるのかと思いきや、〈KOMA〉で働く家具職人武内さんは24歳の若くてかわいらしい女性だった。生粋の職人家系だという武内さんは幼いころからモノ作りの過程を見て育った。自分自身もモノ作りが好きだったため、高校を卒業する時に家具職人になることを志したそうだ。そんな武内さんが〈KOMA〉の社長で師匠でもある松岡さんと出会ったのは、ある展示会。その後アルバイトとして働くことになった。初めは雑務をこなすばかりの日々。家具職人というには程遠い内容だった。しかし転機は突然訪れる。急遽職人を1人増やさないといけない状況になったからだ。松岡さんはあまり期待せず、軽い気持ちで武内さんにやらせてみた。「試しに道具を使わせてみたら他の職人達よりも全然センスあるなって気付いたんだよ。」と松岡さん。淡々と雑務をこなしながらも、毎日松岡さんの手元を見て盗んだという家具作りの技術。それからはひたすら手を動かし、数をこなしていった。初めの頃は繰子刀を使い木を削って形を真似ることが精一杯で、完成したモノはお世辞にも綺麗とは言えなかった。それもそのはず、〈KOMA〉の家具はとにかくこだわりの数が違う。背もたれ、座面、脚は美しさだけではなく座り心地を追求し、ミリ単位で計算された“理”の上にデザインされているからだ。2年やそこらの職人では完璧に仕上げる事は難しい。パソコンでは表現できない繊細なディテールを忠実に形にするため、デザイン画は全て万年筆の手書きにするこだわりよう。「こだわりが強い分、正直作るのは難しいです。でも手を尽くしたモノはお客さんに愛されるんですよ。KOMAの家具は、家に届けに行くと拍手で迎え入れてくれるんです。ただの家具としてではなく、まるで家族を迎え入れるみたいに。」と武内さん。共に暮らし、使う人の人生に寄り添う家具。それが〈KOMA〉だ。

KOMA

現在は6名のスタッフと松岡さんで、無垢家具をメインに家具作りに励んでいる。10月には杉並区上荻で新店舗もOPEN予定。

03-6915-0594
http://koma-shop.jp/

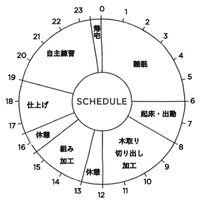
File.5 Furniture

SHIGEKI MATSUOKA　MAIKO TAKEUCHI

松岡 茂樹　武内 舞子

〈KOMA〉に入って4年目。師匠の松岡さんも認める程、家具作りのセンスは人一倍。

武内さんの削り方に合わせてオーダーした繰子刀（手前）。通常の2倍の長さがある刀で繊細なデザインを表現する。



仕事を終えた後はひたすら工房で自主練習を行う。最近は家具のデザインを勉強中だ。

武内さんが初めて作ったという『ベビーチェア』。滑らかな背もたれが魅力。

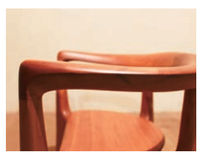
『Sim Chair』は1点ものでありながらも5万円台〜という価格も人気の理由。

驚く程軽く、背には堅い広葉樹、座面には柔らかい針葉樹を使った新作。

Sim Arm Chair
￥79,000（税抜）

手で、体で、形作るモノ。

「20kgの木材だって担げます！」そう言いながら武内さんが見せてくれた腕の筋肉は男性の職人さんに負けない程の迫力。体を使い毎日、木を削り続けた結果だ。そんな武内さんに「思い入れのある家具は？」と聞くと「ベビーチェアです！」と一言。これは武内さんが初めて任された家具。子供用とはいえ、家具は家具だ。あめでもない、こうでもないと言われながら試行錯誤して自分で作ったからこそ、特別な一品だと言う。



座る人のことを想い切って、削って、磨き上げる。

〈KOMA〉で初めて量産モデルを生産することが決まった。それが『Sim Chair』シリーズだ。脚の部分は機械で削り出して効率を高めつつ、座面や背もたれは手作業で行い1点物の良さをバランス良く組み合わせている。スピードも必要だが、座る人のことを考えた繊細なラインは絶対に妥協したくないという想いがあった。それゆえ、つくり手には高い技術力と経験が必要とされる。しかし当時〈KOMA〉でその技術を持っていたのは松岡さんだけ。武内さんはまだ2年目だったが、センスの良さを信じ技術を引き継ぐことに。まずは松岡さんが椅子を削って見せ、それを手本に武内さんが削る。第1号は松岡さんと大きな差があったことを今でも良く覚えているという。それからはひたすら座る人のことを想い、切って、削って、磨く日々。2年が経った今、「武内無しではこの椅子は完成しなかったな。」と松岡さんは言う。

WISH LIST

Volume.07

DESIGN Mirror

リノベをするならここまで注目！

憧れのリノベーションで作り込んだ私の部屋。空間は理想通りなのになんだかキマラナイ。そうか！皆が気がつかないくらいの細部まで気にしていなかったから…？それじゃあリビングや洗面室にこだわりのミラーをプラスするのはどうだろう。今日の服をチョイスし、メイクアップしたらお気に入りのミラーに向かって「いってきます！」。毎日がもっと楽しくなるかも！

What you want?

1

2

3

4

5

6

7

8

9

1:アメリカンニュースペーパーを使い仕上げたスタンドミラー。手作業で仕上げているため、1つ1つ違った表情を楽しめるのも魅力。ラフな空間にマッチしそう。（8mm工房 デザインフレーム×ミラー（ニュースペーパー（アメリカ）×アンティークブラック）¥36,000 税別）**2:**フレームには無垢の松集成材を使用し、緑みのブルーとホワイトでペイントしたウォールミラー。ヴィンテージな雰囲気が漂うお部屋のアクセントに。（8mm工房 デザインフレーム×ミラー（ウォルナット×緑青色×ライン）Sサイズ ¥12,000 税別）**3:**レトロな雰囲気が漂うアメリカ製のウォールミラー。木フレームの使い込まれたようなダークな色味と艶が高級感をプラスしている。（POINT NO.39 Wall Mirror（Drexel）¥55,000 税別）**4:**古材独特の空気感と温もり、質感を大切に作られたスタンドミラー。フレームはブナ材をアンティーク塗装している。落ち着いた雰囲気はどんなお部屋にも合いそう。（CRUSH GATE PEACE MIRROR Mサイズ ¥45,000 税別）**5:**窓をモチーフにしてデザインされたミラー。フレームにはカバ材を使い、ダメージ塗装で仕上げている。壁にかけてウォールミラーとして、また置き型としても使用できる。（CRUSH GATE DOORS MIRROR Gタイプ ¥47,000 税別）**6:**1960年頃に作られたビンテージもの。フレームに1つ1つ表情のあるブルータイルを貼ったミラーは、お部屋のワンポイントにぴったり。（Lloyd's Antiques タイルド ウォールミラー ¥75,000 税別）**7:**チーク材のフレーム外側をローズウッド、内側をブラックでペイントしたモダンなミラー。2つの長方形を合わせたようなインパクトのあるデザインが魅力。（Lloyd's Antiques ウォールミラー ¥85,000 税別）**8:**オーバル型のウォールミラー。ロートアイアン製のフレーム全体にリーフのモチーフがデコレーションされている。フェミニンなお部屋やレトロなお部屋に合いそう。（Bcube アイアンフレームミラー ¥9,800 税別）**9:**角度の調節もできる伸縮式のアームミラー。ゴールド色とシルエットが存在感を放つ。裏側は拡大鏡になっているため、毎日のメイクアップに役立ちそう。（Bcube アームミラー2面 ゴールド ¥6,800 税別）

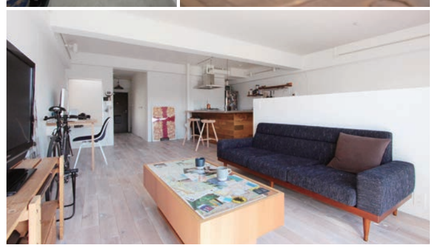
自転車、カメラ、アート…。厳選し尽くしたお気に入りを並べて、白との対比を楽しみます。

ORDER REPORT
横浜市O邸
オトコの白
HOBBY×DETAIL
nu by renovation

nuでリノベーションをしたオーナー様の物件購入から設計、ご入居までをレポートしました。

築30年の中古マンションをリノベーション。

真っ白な空間の中で過ごす、こだわり溢れるオトコの白。



理想は雑居ビル

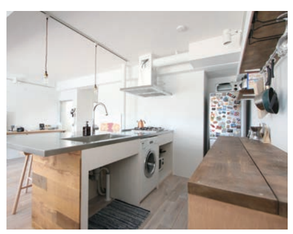
横浜市鶴見区。カメラに携わる仕事をしているOさんのお宅は、高台で見晴らしの良い場所にあります。もともと小田急線沿線の賃貸で暮らしていたOさんは、年齢的にそろそろ家を購入したいと漠然と考えていました。そんなある日、恵比寿へ遊びに行った際にｎｕｃａｆｅの前を通りかかりｎｕのことを知ります。仲間うちでも『リノベーション』という言葉を良く聞くようになり、家づくりの新しい方法に興味を持ち始めていました。早速毎週末開催されているｎｕの個別無料相談会参加し、そのまま物件探しをスタート。最終的に築30年、55.24㎡の物件を購入されました。幼少期から暮らしていた小田急線沿線で、自転車やカメラという自分の趣味に適しているところが決め手だったそうです。

シロに投影する趣味

白が好きなOさん。家をつくるなら、壁や天井は白く塗装し、内装にはコントラストをつけず、平面的にさっぱりと。また雑居ビルのような空間にしたいという希望を伝え、デザイナーが提案したコンセプトは「オトコの白」。女性が好みそうな白を、男性目線で取り入れていくとどんな化学反応が起こるのか?!そんなテーマに沿って“雑居ビル”のような世界観と極力空間を広く使えるようなプランを考案しました。

そして、出来上がったプランは、ＬＤと寝室を低い壁で仕切っただけの１ＲＯＯＭ。その空間でひときわ存在感を放つのは、横幅２ｍ６０㎝のキッチン。「料理は一切しないのにキッチンにこだわりました（笑）」とＯさん。その理由を尋ねると、見た目へのこだわりよりも空間を効率的に使うアイディアが隠されていました。奥行き１ｍ以上ある作業スペースは、食事も取れるようカウンターとしての役割も果たします。「ダイニングテーブルを置くと、その分空間が狭くなるので、キッチンとカウンターを一体にしようという提案を頂きました。」と仰るように、カウンター側には『ｄｅｃｏｒ』でオーダーしたＷｅｒｎｅｒ社のシューメーカーチェアが並びます。またもう１つのアイディアは、洗濯機をビルトインさせたこと。「食洗機よりも、洗濯機！」という程、洗濯好きなＯさん。シンクの下という場所は、家の中でも一等地。そこにこだわりのＭｉｅｌｅの洗濯機を入れ、連日のように服に合わせて色んな洗い方を楽しんでいるんだとか。見渡す限り本当にさっぱりとしているリビングは、天井も壁も床も白で統一。中でもフローリングにはとてもこだわりました。エイジング（経年変化）を楽しめるような床の表情を求めて、無垢オークに白く塗装→拭く→白く塗装という工程を繰り返した結果、倉庫に敷いてあるようなオリジナルフローリングが完成。そんな白い空間に映えるのは、お気に入りのアートや旅先で集めたマグネット、そして趣味の自転車です。元々壁にはめ込まれていた窓は、雰囲気を出すために窓枠を外して雑居ビルっぽく。一度スケルトン状態にした時に出てきたコンクリートブロック壁なども要所要所で活かしながら自分らしくカスタム。

「とにかく一人暮らしの家づくりを目一杯楽しもうと思いました。好きなものには興味津々だけど、他には興味なしなので割り切った空間になったと思います。」とＯさん。土間から続くＷＩＣにはアパレルショップのように洋服がずらり。これぞオトコの趣味部屋という並べ方は圧巻です。「引っ越して半年ですが、この部屋の使い方をまだまだ悩んでいたりします。」と、自分の趣味がカンペキに反映されたこの空間には、余白がまだまだあるようです。

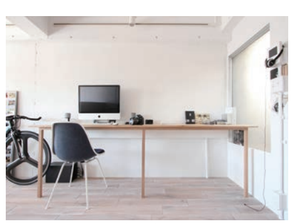


白でつくる、オトコの城

リノベーションしてからは家の居心地がとても良くなったというＯさん。だからこそ家から出なくなりそうなので極力外出するようにしているんだとか。

Ｏさんはバックパッカーで良く旅に出るそうで、去年10月には香港、一昨年にはチェコ・ドイツに行ってきたとのこと。趣味のカメラを片手に訪れる国々の駅舎を撮りに行くのが旅のお約束です。

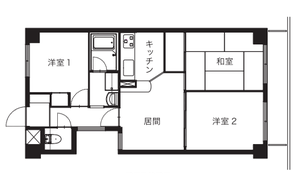
撮った写真はインスタグラムなどに載せているが、写真は人に見てもらうのが一番うまくなるので、いつか自分の作品を１冊の本にまとめようと考えているといいます。その作品が完成するのと同時に、今後土間スペースをもっと改造していきたいというＯさん。まだ自分だけの城を手に入れたばかり。これから白いキャンバスに何を映していくのでしょう。


趣味のカメラで撮影した作品を整理するスペース。

設計担当
菅谷 栄二
Eiji Sugaya

物件概要

所在地	神奈川県横浜市
間取り	1ROOM+WIC
築年月	1986年4月（築30年）
専有面積	55.24㎡（壁芯）
家族構成	SINGLE
工事金額	1,000万〜1,200万
竣工年月	2015年8月



BEFORE

AFTER

ナチュラルで優しいインテリアたち。

可愛らしい譜面台が目印。

右／ご主人が愛用していたオルガンやアコーディオン、マンドリンが所々に飾られた店内。見ているだけでワクワクします。

とうきょう cafe 部

VOl.05

美味しいコーヒーを飲む、
落ち着いた空間でぼーーと過ごす、
ヘルシー料理を食べる…
カフェでのちょっとしたことが
毎日を豊かにしてくれる。
自称カフェマニアの私が
おすすめのカフェをご紹介します。

おすすめは週替わりの「本日のプレート」(950円)。

右／取り扱うCDはここに来ないと出会えないものばかり。アコーディオンやハープなど、優しい音色が特徴です。左上／DIYして塗ったスカイブルー壁の奥からは、料理をする奥様の姿が。左下／月に1・2回、生ライブを開催。食事をしながら楽しめる人気のイベントです。

食堂・音楽室 アルマカン

食事と音楽が楽しめるノスタルジーカフェ

吉祥寺駅から徒歩6分、譜面台の看板が目印のお店〈食堂・音楽室 アルマカン〉。お店に入ってまず目を引くのは、オルガンやアコーディオン、マンドリンといった所々に飾られた楽器たち。独特な存在感を放ちながらも、楽器がアンティークの椅子やテーブルと見事に調和し、素敵な空間を作り出しています。ご夫婦2人で始めたというこちらのお店は、奥様は料理を担当し、音楽家として活動しているご主人は楽器演奏や店内で販売しているCDの仕入れを担当。CDは季節に合わせ、ゆっくり聴いてもぼーっと聴いても楽しめるものをセレクト。

お店のコンセプトは『季節や日々の生活に寄り添う食事と音楽』。「毎週来ても飽きないように、週替わりで季節にあった野菜を取り入れてます。店名に『食堂』を入れているのは、ご飯がメインになるのでカフェでなく食堂かなって、お店を始める前からこの名前だけは決まっていました。」と奥様。

メニューは、ヨーロッパ諸国やモロッコなどの料理のエッセンスをとり入れた、国籍にとらわれない豊富なラインナップ。季節の食材を使った料理を味わいながら、心地よい音楽が楽しめるノスタルジックなお店です。

㊟ 武蔵野市吉祥寺南町2-21-8　☎0422-29-9222
㊐［月・火・金・土］11:30〜21:00(L.O.20:30)
［水・日］11:30〜18:00(L.O.17:30)
㊡ 木曜日・不定休

directOr
ルーミー (Uedo Rumi)

「とうきょう cafe 部」部長
学生時代に、建築の勉強をしていたこともあり空間には少しうるさい。
平日、休日問わずカフェ巡りを楽しむ。

○○のある風景 | vol.7 |

日常の風景の中に、あったら嬉しいもの。それがあるだけで見慣れた部屋が映画のワンシーンのように素敵になるものを気まぐれに紹介していきます。

DBK
スチーム＆ドライアイロン ブラック

DBKは、ドイツの電熱製品専門メーカー。さすがドイツという感じの、質実剛健なこのアイロンは日本の小学校でも選ばれていた程操作しやすいのが特徴。1.5kgと少し重めのボディーでしっかりとプレスできるので、ストレスフリーにスイスイとかけられます。同じドイツのメーカーのフレディ・レックウォッシュサロンのアイロンボードで揃えたらブルーで統一される感じが気持ちいい。

使用頻度はあまり高くないけれど、使い勝手の良いものがいい。私にとってそれはアイロンです。今の家に暮らし始めた当初、旦那が持ち込んだアイロンを使っていましたが、なんだか好きになれなかったため、心の底では早く壊れないかなあとそっと思っていました。ボタンを押して電源を入れ、高中小の温度設定が出来、肝心の本体は軽くて持ちやすい。しかもコードレスで本体を仕舞っておくケースまであるのに、です。ではどんなアイロンを求めていたのかというと、ずっしりと重みがあり、端までパリッとかかり、道具以前に置いておくだけでなんとなく様になるようなもの。なんとなく様になるといっても、私の中では本体に日本語が書かれていたらもうアウト。そのため選択肢は必然的に絞られました。ああ、今のアイロンが壊れたらこれにしよう！そう思えたものが、DBK社のスチームアイロンです。ドイツ生まれで機能面は信用出来るし1.5kgと持ったときにずしりと重みがある。そして何よりもちょっとレトロな雰囲気を醸しつつシャープさも併せ持っているこのビジュアル。か、完璧…。あとは今使っているアイロンが壊れるだけ、と暫く我慢しておりました。そしてついに！その時がきたのです！(ちなみに前のアイロンは結構長く使ったんですよ)ワクワクしながら購入し、初めて使ったときの感動たるや。え、わたしクリーニング屋さんだったっけ？と脳内パラレルワールドに迷い込むほど素晴らしいかけ心地でした。コードはフレキシブルに動くため、コードレスアイロンと比べても動かしやすさは全く引けを取りません。間違いない買い物。そしてこの先は壊れてもまたこれをリピートするだろうと思えるものに出会えた嬉しさで、今では使う度プロ気分を味わいニヤニヤしております。

nu PRESS
やました あい
飼い猫の“まゆ太郎”。
大型犬用のクッションを購入し
お昼寝に使おうと目論んでいたところ、
いつの間にか、この方専用に。

ハンターはやしの 照明コレクション LIGHTING FROM THE WORLD

vol.2

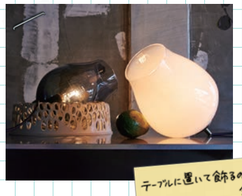
世界中の様々な照明をご紹介

今回のターゲット
『 Lily 』
発見地：目黒のインテリアショップ
体　長：H 250mm / W180mm
特　徴：鈴蘭がモチーフのシェード

H250mm
NEW LIGHT POTTELY
作品名：Lily
価　格：48,000円(税抜)
http://www.newlightpottery.com/

W180mm

職人がマウスブローで作る美しいガラスシェード。



テーブルに置いて飾るのもオススメ。鈴蘭の花のよう。

職人の技が作るガラスの美。

鈴蘭、花言葉は「純粋」。
鈴蘭を意味する英語の Lily of the valley から付けられた『Lily』という名前は、この照明を見た瞬間からぴったりだと思いました。私が Lily に出会ったのは目黒のインテリアショップ。小ぶりながらも、控えめに輝くガラスシェードの美しさに見とれてしまったのを今でも覚えています。なめらかな曲線を描く美しいフォルムは、鈴蘭の花からインスピレーションを受けたもの。ガラスのシェードは、マウスブローで職人が息を吹き込みながら成形するため1つ1つ少しずつ形や色味が違うのも魅力です。ガラスにはシンプルな真鍮メッキのソケットを合わせ、そこからブラックのコードが天井まで続きます。コードがピンと張るように、シェード部分は1.7kgと重量感をもたせているのもポイント。ガラス越しに白熱球のフィラメントが、ぽっと浮かび上がるその姿は、とても幻想的です。天井から吊るすのも良いですが、ローテーブルに置くとまるで野にさりげなく咲く鈴蘭のようにも見えてきます。フェミニンなお部屋であれば、さっと溶け込むように馴染むし、あえてハードな空間に置いてアンニュイな感じに仕上げるのもありかもしれません。

nu PRESS assistant
照明ハンターはやし
Orina Hayashi
三度の飯より照明が好き。照明を求め様々なインテリア店を散策するのが趣味。憧れの照明「タリアセン2」をゲットするため日々頑張る新人。

リノベーション入門

第2回 壁構造とラーメン構造について。

グラフィックデザイナーが学ぶ！リノベーションのあれ？これ！

グラフィックデザイナー13年目。リノベーション業界に転職して2年目の私が独自のたとえでリノベーションを解説・説明していく記事になります。真剣に読まず、気楽に楽しんでいただけると幸いです。

リノベ2年目

1. 約1年ぶりですね！少しずつですがリノベーションの知識も増えて来ました。そこで、今回は構造について少しご紹介します。
2. ドキドキ
3. マンションなどの建物構造は、大きく2つに分かれます。
3. ジャーン
3. 1つ目は「壁構造」鉄筋コンクリート造の一種で柱や梁がなく壁だけの構造のモノです。
4. ジャジャーン
4. 2つ目は「ラーメン構造」柱と梁で骨組みを造り、その接合部をしっかりと繋いだ構造のモノです。
5. さらに！

6. 壁構造
これはない
壁構造だとリノベーションをする時に大きな間取り変更などが出来ません。ただ、既存部分を活かす事でコスト的に安くなる場合もあります。

7. ラーメン構造
ラーメン構造だと柱や梁などで支えているため、自由度が高くリノベーションをする時により理想的な空間を手に入れる事が可能になります。

8. ラーメン じゅるりっ
9. 食べる方じゃない
10. 「ラーメン」とはドイツ語で「額縁」と言うそうです。

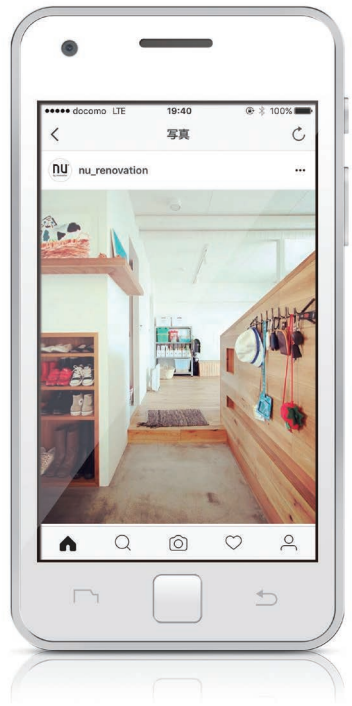
easy & cozy 『本棚 × アーチ』

無垢オークを市松張りにした LD へ入ると、目に入るのはハーベストパネルで囲ったキッチン。そのあたたかみのある雰囲気と、ブルーグレーのアクセント壁が北欧を思わせます。造作の本棚から一冊選び、ソファでゆったりと読書をするのがココロ安まる特別な時間です。

所在地	神奈川県横浜市
間取り	2LDK+WIC
築年月	1988年6月(築28年)
専有面積	79.53㎡
家族構成	FAMILY
工事費	1,200万円〜
竣工年月	2016年4月

コレ！カッコイイ！

Instagram START



この度、Instagramにnuリノベーション公式ページを開設しました。
お届けする内容は、インスタグラムの特徴である写真やショートムービーを中心に
様々な角度から撮影したリノベ空間やおしゃれなインテリアなど、
nuが創造するよりよいライフスタイルの魅力をお届けしていきます。

「nu_renovation」で検索

EVENT 毎週末開催

「わたしたちでもリノベーションって出来るの!?」まずは個別無料相談会へご参加ください。

リノベーションって何？リノベーションってどんなコトまでできるの？自分もリノベーションしてみたいけど
何から始めたら？費用はいくら用意すればいいの？？リノベーションに関するご質問、ご相談など何でも結構です。
リノベーションの知識に特化したプロのアドバイザーがお客様の様々なお悩みに無料でお答えします。
SINGLE、DINKS、FAMILY、それぞれのライフスタイルに合わせて今だけでなく
将来のプランまで見据えたご提案をさせていただきます。
nuリノベーションで、“自分らしい”暮らしを一緒につくりませんか？

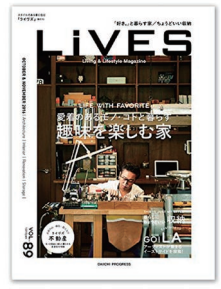
場所：東京都渋谷区広尾 1-7-20 DOT　nuリノベーションオフィス
交通：JR ／東京メトロ日比谷線「恵比寿」駅西口 徒歩7分
東京メトロ日比谷線「広尾」駅2番出口 徒歩9分

PUBLISHING

2016.5.25
三栄書房
LOOP Magazine vol.21
「BICYCLES IN MY ROOMS」特集

2016.6.14
扶桑社
relife+ vol.21
「おすすめリノベ会社50」特集

2016.9.7
宝島社
InRed No.164
「大人女子の住まい」特集



2016.9.15
第一プログレス
LiVES vol.89
「暮らしにちょうどいい収納」特集

MEMBERS PREMIUM

nu MEMBERS 会員限定の特典をご用意しております。

nuでは「nu MEMBERS」を募集しております。会員として登録（登録料・年会費無料）頂くと様々な特典をご用意しております。イベント情報や未公開物件の最新情報をいち早くメールマガジンでお届け、更にイベント優先予約や設計料の割引等、これからリノベーションをお考えへの方へ向けた特典が多数ございます。ご興味のある方は是非チェックしてみてください！

http://n-u.jp/contact/

nu MEMBERS 会員限定特典

登録料
年会費
無料

1. 個別相談会へ無料参加！
2. リノベ設計料が2～5%に!!※
3. リノベ完成物件見学会へご案内！
4. セミナー等のイベント情報を先行配信、優先的にご案内！
5. nu発行のライフスタイル誌「UNIQUES」プレゼント！

※非会員様は工事費の10%になります。

LINE やってます！

友達に追加すると
リノベーションの
お得情報やイベント
情報などを配信します！

リノベーション東京スタンダード®

東京に住む一人一人の価値感と想いを、リノベーションでカタチにし、多くの笑顔を創造したい。古い家でも、リノベーションで安心して快適に暮らせる、という考えを広めることはもちろん、東京に住む人の数ほどある価値感と想いを、リノベーションという手法を使ってカタチにする。そして東京を中心に、中古マンションを買ってリノベーションするということを、住宅取得の新たな選択肢として確立していく。
それが nu の考える「リノベーション東京スタンダード」。

COMPANY PROFILE
NEWUNIQUES Inc.
DOT OFFICE, 1-7-20 HIROO,
SHIBUYA-KU TOKYO
Tel：(0120)-453-553　Mail：info@n-u.jp

NEWUNIQUES web site　http://newuniques.com/
nu by renovation web site　http://n-u.jp/

STAFF
Publisher　Eiji Usuda
Director　Ai Yamashita　Rumi Ueda
Design　Kouhei Ishibashi
Editor　Orina Hayashi

nu by renovation®
New things are eventually getting old...
Renovation can give used things new value.

かえる。くらし。すまい。
リノベーション住宅推進協議会

本誌に記載されている商品の仕様及び価格は、予告なく変更する場合があります。又、印刷の都合上、実際の色と異なる場合があります。予めご了承ください。
Published by nu renovation all right reserved. No part of this paper may be reproduced without written by the auther.